

国際協力出前講座

テーマ別授業案

【異文化理解】

1. 自己紹介

導入

- 民族衣装で登場
- 現地語でのあいさつや自己紹介
- 現地語の文字の紹介

学生時代の話（聴講者の年齢に応じて）
社会人経験者であれば前職の話
協力隊に参加したきっかけ

等

2. 派遣国の紹介

現地の文化

- 生活習慣
- 食事
- 衣服
- 祭り
- 宗教

等

映像や写真、クイズなどを交えて紹介

3. 異文化理解①生活編

現地でのカルチャーショック、びっくり体験。
日本との比較を通じ、ところ変われば見方も変わる、ということ伝える。

例) マレーシアにはナシクラブという料理があり
青いご飯を食べる
⇒ 青いご飯なんて気持ち悪い。
⇒ 赤飯だって他国から見れば気持ち悪いかも。

4. 活動紹介

派遣国、配属先の課題

- どんな開発課題があったか。
- 解決するためにどんな活動を行ったか。
- どんな反応があったか。
- 結果、どう変わったか。
- 海外協力隊だからできたこと。

等

5. 異文化理解②活動編

活動を行う中で直面した文化上の壁、苦労したこと。それらをどう克服したのか、もしくはどのように受け入れたのか、成果等

例①仕事よりも地域行事が優先で職場に来ない⇒一緒に参加してみたら同僚も喜んでくれ、活動にも協力的になってくれた。

例②教員はプライドが高くアドバイスしても聞き入れてもらえない。⇒研究授業で教員同士が意見交換する場を設定。自分の授業を見てもらい参考にしよう。

6. 異文化理解③帰国後編

日本に帰ってきた時に感じた違和感や逆カルチャーショックを通じて、日本についても見直すきっかけを与える。

例①任地：人との距離が近くておせっかい。困っているとすぐに声をかけてもらえる⇒日本：災害があった時などは助け合いの精神を発揮。でも日常的には？

例②任地：政治・社会問題について話題を振られる。自国に誇りを持っている。⇒日本：友人同士で政治・社会問題について話す？日本の文化・歴史を外国人に説明できる？

7. 終わりに

二年間の海外協力隊活動を通じて、考えたことや自分自身の変化

- 異文化の中で生活、仕事を通じて学んだこと
- 異文化理解のために重要だと思うもの
- 違いを認め、受け入れるには？
- 子どもたちへのメッセージ

等